

青少年むらやま

第44号
2025年
令和7年2月25日

特集

伝えたい、私たちの想いを

～青少年の考えや意見を聞く～

村山地区青少年育成連絡協議会推進員部会研修会で、若者の声を今後の自分たちの活動に生かすため、西川町の中学生に「伝えたい私のメッセージ」と題して、今の想いを語っていただきました。以下はその内容と本人へのインタビューをまとめたものです。

「素晴らしい世界になるために」

西川中学校2年 鈴木沙奈さん

障害をもつ妹が今年小学校へ入学し、友達や先生方との触れ合いの中、笑顔で毎日楽しく学校生活を送っている姿にふれた沙奈さん。一人一人の個性や障害を受け入れ理解することと、いじめや不登校といった悲しい出来事を減らすことができるはずだと訴えました。本人も、一人一人の個性を大事にし、お互いを認め合える関わりをつくっていききたいと。

そして、世界中の人々がわかり合える日が来ることを信じています、と訴えました。



たくさんの人の前で堂々と発表することができました。皆さんにわかってもらえて今まで以上に堂々と、妹のことを話すことができるようになりました。

今後は、妹と一緒に多くの人が集まるイベントなどに積極的に参加していきたいと思います。また、障害や人権について勉強したいです。

「宝物」

西川中学校3年 古澤穂乃花さん

『いぐだい すむだい してみっだい From Nishikawa to the world』西川町のキャッチコピーです。これは、古澤さんが応募したもの。町の人口が年々減少し、高齢化が進んでいる中で、少しでも若い人に興味を持ってもらい、たくさんの人に、町のいいところを知ってもらいたいという願いを込めて作りました。あたり前に飲んでる水が都会では考えられないほどおいしいことを知った古澤さん。他にも山菜や野菜、月山和牛、月山ワインなどのおいしい食べ物がたくさんあり、またONSENガストロミーというイベントには、県外からたくさんの方が参加しているのを見て、気づかなかった西川の自然や食べ物がとても魅力的で自慢になったと。また、友達や地域の人とかわす挨拶も、人々を結び付ける温かさを実感できる宝物。スキー場や雪も。その宝物が永遠に残るよう情報発信をしていきたい、と決意を述べられました。



素敵なイベントがたくさんあるので、そこに、ボランティアとして参加し、多くの人に直接、西川の魅力を伝えていくことがこれからの目標です。

令和6年度 村山地区優秀標語

いじめ・非行をなくそう、やまがた県民運動

最優秀

いやなこと しない いわない ゆるさない

村山市立榎岡小学校1年 清水 晴仁さん

優秀

こそこそと きこえてないけど つたわるよ

天童市立高橋小学校1年 加藤 夏海さん

いじめはね やめるんじゃなくて はじめない

寒河江市立寒河江小学校3年 山田 星那さん

認め合おう あなたの「普通」と わたしの「普通」

天童市立第三中学校3年 小笠原和寿さん

傍観者 ならない・助ける・見捨てない

寒河江市立陵南中学校3年 椎名 悠仁さん

その言葉 心のフィルター かけてある？

尾花沢市立尾花沢中学校3年 柳橋 真佳さん

いじめはね なみだがでるよ いけないよ

榎岡特別支援学校寒河江校小2年 関根 穂純さん

最優秀賞の清水君に聞く

「いじめはいやなことだと思っう。いやなことはしない・言わないようにするという気持ちで考えました。これからも、いやなことはしないようにしたいと思っいます。受賞したと聞いて、びっくりしたけれど、とてもうれしかったです。家の人も喜んでくれました。」

清水君は、最優秀作品の作者として、県民大会の席上で、柿崎会長より賞状を授与されました。おめでとうござい

ます。優秀標語ポスターは小中学校、公民館等の社会教育施設、JRの各駅などに掲示されています。



提言



ムラに住んで良かった

河北町青少年育成町民会議 会長 砂田 哲

北谷地区の青少年育成会議の事業の一つに、『ホタル観賞の夕べ』がある。法師川の上流にある岩木地区の方々が「ホタルの里岩木」の看板をたてて、ホタルが住めるようにきれいな環境づくりがなされている。この事業も、コロナや熊出没のため、しばらく休んでいたが昨年からは復活した。特に、昨年ホタルが大発生した。今年もたくさん「源氏ホタル」を見ることができた。

小学校の子ども達とその保護者、そして地域の方々が五十人ほどセンターに集まった。講師の八矢好幸先生から、「源氏ホタル」と「平家ホタル」の違いや、オスとメスの見分け方など、観察の仕方を教えてもらった。

そして、現場について、橋の上から、光って飛び交っている「源氏ホタル」を見て、「ウオー」という歓声が上がった。子ども達は、ホタルを捕まえて、お父さんお母さんと一緒に、オスカメスカ調べていた。小学校の安孫子校長先生が、「こんなふうに、親と子が一緒に感動し、一緒に活動している姿がいいねー。」と話してくれた。参加していた私と同じ町内会の若いお父さんが、飛び交うホタルを見ながら私の隣でつぶやいているのが聞こえてきた。「こ

こに住んで、良かったと思う。都会になど住みたくないなあー。いや、おれは、都会には絶対住めないと思う。」この人には、子ども会育成会長をしてもらっている。冬には子ども達と保護者が雪でいろんなものを作る『ファンタジーナイト』を計画している。

私の町内会には、十人位の若者がいる。この前一緒に飲んだ時に、子ども会育成会長が突然、「年寄りだ、屋根さあがって雪下ろしすんな、やめてしろー危なくて見てらんねえ。雪下ろしなどオレだ若い衆ですっから、いつでも言ってる。」と真剣に力強く話してくれた。涙がでそうになった。町内会の事業である、「お祭り」「ピアガーデン」「おさいとう」なども、年取った役員がやってきたのを、若い衆がオレたちでやると積極的にやってくれている。私は、この頼もしい若者たちと一緒にお酒を飲みながらしゃべることを、いつも楽しみにしている。



「ファンタジーナイト」準備風景

生徒と地域の大人の対話会

今年度は、8月30日に村山市で、11月27日に上市市で開催されました。

村山市では、村山産業高校を会場に、『SNS』と『薬物乱用』の二つをテーマに開催されました。学校、青少年育成推進員協議会、警察などの関係者が連携して計画し、有意義な話し合いとなりました。（関連記事3ページ）

また、上市市では、「ふれあいトークかみのやま2024」が、上山警察署で開催されました。『SNSでの非行・被害を考える』というテーマで、市内の中高生が参加し、SNSの危険性とトラブルに巻き込まれないためにはどうすべきだったのか、事例をもとに、大人達と話し合いました。大切なのは、確かな情報を集める力とコミュニケーション能力を高めることだと確認することができました。信頼関係を構築し相談しやすい環境づくりが必要との意見も多かったようです。

大人と子ども（青少年）が一緒になって、様々な課題を解決しようとする話し合いの有効性を感じました。今回の結果が、家庭や地域、学校内で広く周知され、いじめや非行防止の取組みが広がることを期待します。



ふれあいトークかみのやま2024

令和6年度 山形県青少年健全育成県民大会表彰者

◇青少年育成功労者

- 長年各地区で青少年の健全育成活動に貢献された方々(村山地区関係)
 - 手塚秀雄さん／秋葉栄法さん／設楽信一さん
 - 小林正治さん／今野昭一さん／鈴木康彦さん
 - 古澤 修さん (以上山形市)
 - 菊地元宏さん／菊地吉彦さん (以上寒河江市)
- ◇いじめ・非行防止広報用ポスターデザイン
最優秀 山形中央高校 1年 野村咲景さん



第一部では、漁港見学や周遊船乗船、砂浜遊びなど名取の海を活かした体験を思い切り楽しみ、はじめこそ緊張していた子ども達も、すぐに打ち解けて、仲間との思い出を胸に第二部での再会を誓いあっていました。冬の第二部上山会場では、青少年育成推進員もスタッフとして子ども達の活動を見守り、青少年健全育成事業を共に進めてまいります。

上山市 海の子 山の子 交歓会を 開催しました

上山市と姉妹都市・宮城県名取市の小中学生を対象とした「海の子山の子交歓会」第一部を10月12～13日に名取市で開催しました。

昭和48年から始まったこの交歓会は、両市に一泊二日ずつ滞在して実施する二部構成で、地域の特色を活かした野外活動等を通して、両市相互の小中学生の交流を深めるものです。

また、企画・運営に、ジュニアリーダーの「あすなる(上山市)」、「あにまるす(名取市)」が携わり、ゲームやクイズで盛り上げるほか小中学生の指導役を担います。参加者同士の交流に加え、普段学校では接しない異年齢間でコミュニケーションをとることで、社会性を学ぶ機会にもなっています。

寒河江市 ボランティアサークル 「チェリーズ」

寒河江市のボランティアサークル「チェリーズ」は、寒河江市在住、もしくはは在学の中高校生合わせて23名。力を合わせて活動しています。

活動内容として、市や関係機関から依頼された『全国俳句大会』表彰式時の賞状伝達や、『ネーチャーゲーム』での小さな子ども達のお世話など、多岐にわたっています。

昨年度から、メンバーの提案で始まった『小児がん支援 山形レモネード』。今年も、『寒河江市福祉と健康フェア』の場をお借りし、活動しました。「ありがとうさま。私も、がんになったことあつがら、苦しいの、よくわかるのよ。」と書いて、代金の他にお金を寄付してくれた市民の方。そんな会話が、メンバーの琴線に触れ、メンバー自身、何かを感じながら活動しています。



『チェリーズボランティア 三方よし
「自分によし 相手によし 地域によし」
をキャッチフレーズに、これからも、相手の身になって主体的に活動していきます。
ご声援ください！

村山市 きずなトークむらやま 2024の開催

青少年育成市民会議では、高校生と大人が共通のテーマで話し合い、相互理解を深める「きずなトークむらやま2024」を8月30日に、村山産業高等学校において開催しました。今回は「SNS」と「薬物」をテーマに話し合いました。

はじめに村山警察署の専門官よりテーマごとに話題提供をしていただき、大人と高校生を交え、5班に分かれ討議を行いました。



SNS問題では、誹謗中傷の書き込みや、写真の要求など実身の回りで起きている事例を出し合い、薬物問題では、高校生の間でも本当に身近な問題であることが話し合われていました。

討議の後、高校生から「一人で解決しようとしないう」ことや、「正しい知識を持ち、ネット上にある情報をむやみに信用しない」ことなど、問題について自分ができること、やってみようことが報告されました。参加した高校生は、真剣に問題に向き合っており、私達大人にとっても、新鮮な情報を交換するいい機会となりました。今後も高校生と対話を重ねながら、よりよい地域になるよう、活動に生かしていきたいと思えます。

所感



中山町青少年育成推進員会
会長 多田 英生

中山町青少年育成推進員は総員5名と少人数で活動を行っています。他の団体と連携し、地域の未来を担う子ども達とのふれあいを大切にした活動を心に置いていきたいと思っております。

今の子ども達と私達大人で大きな違いがあります。それは、スマホ検索のスピード感です。一つのワードが出てからの検索と結論を導き出すプロセスが私達大人のそれとは雲泥の差です。なぜなのでしょう。ネットにある情報は必ずタグ付けしてあります。言い替えればレッテルを貼っているとも言えます。そうすることで仕分けを簡略化し結論に早く辿り着けるからです。コスパ、タイパの観点から見ても良いと考えられています。

しかし、本当にそうでしょうか。私達は様々な体験を通して、事態を、感じ、受けとめ、考え、行動しています。レッテル貼りされた情報だけではない一人一人の思いや願いが込められているかもしれない。

日々の活動の中で、あらゆる事態を、「これはこういうもの」と言うレッテルを貼るだけでは済まされず、先入観や偏見、常識を横に置いて受けとめる。そんな生き方にこそ、本当の未来を探す力があるのではないかと私は思います。

青少年を取り囲む環境は、日々変化していきます。その中でも流されることなく見極める力を育んでいけるよう、私達も尽力して参りたいと思います。

関わりを大切にしたい会社作りを

〓 県民運動啓発キャラバン企業訪問 〓

今年度は尾花沢市の株式会社最上世紀（代表取締役 中西愛子氏）を訪ねました。

対応していただいたのは、総務経理部課長の小野さん。懇談に先立って、啓発物品（いじめ非行防止入選標語入りポケットティッシュやリーフレット、缶バッジ）が、尾花沢市青少年育成市民会議、池田会長より手渡されました。

社員は、10代から60代と幅広く、社員同士のコミュニケーションが難しいとおっしゃっていました。青少年の健全育成には、その環境を作る大人同士のコミュニケーションや、あいさつ運動をはじめとした、社会全体での取り組みが重要。それに加えて、相手を思いやる気持ちやその状況に応じた判断力を身につけることも、とても大切だと話す小野さん。顔の見える関係づくりのため、コミュニケーション能力の向上といった、人生を豊かにするための研修を、今後も充実していきたいと語ってくださいました。

対応いただいた小野課長様はじめ、最上世紀の皆様感謝申し上げます。



村山地区「青少年育成運動支援事業」助成団体

西川町「岩根沢太々神楽保存会」

代表 岩本 寿一氏

少子化が進む中、地域の伝統芸能を守るため、次世代への継承活動と、子どもと地域の関わりを深めながら、青少年の健全育成やふるさとを大切にする心の醸成を目的に活動している団体です。

代表の岩本氏は、「50年続いた太々神楽。今回の受賞を励みに、より一層頑張っていく予定です。」と話していました。

顕彰式には、子ども神楽を受け継いでいる小学生も出席。「太々神楽をたくさんの人から知ってもらい、これから仲間を増やしていきたい。」と、意気込みを語ってくれました。



編集後記

原稿提出等、多くの皆様に御協力いただき、本機関誌を発行することができました。心より感謝申し上げます。さて、県内四地区を持ち回りで開催される青少年健全育成県民大会。今年度は、村山地区が担当でした。会場となった村山市ははじめ、ご尽力いただいた皆様に、改めて感謝申し上げます。開催するにあたり、実行委員、事務局員に委嘱された各市町民会議会長、推進員部会長、行政担当職員の方々が、創造性と自発性を発揮し、積極的に運営に関わってくださいました。その方々とお会い、成功に向けて一緒に活動できたことが、本地区協議会で県民大会を開催した一番の成果だと感じています。(S)